

令和6年度第1回下関市子ども・子育て審議会 会議録

日 時	令和6年5月29日（水） 15:00～17:00	場 所	セービング陸上競技場（下関市営 下関陸上競技場）本部役員室
委 員	横山眞佐子委員、宮川雅美委員、田中仁委員、富永順子委員、梶山正迪委員、 伊原宗信委員、中川浩一委員、横尾和憲委員、肥塚陽子委員、山本正俊委員、 池内賢二委員、若松佐織委員、谷村鴻文委員、雫石桂一委員、森永香委員、永島昭雄委員		
事務局	栗原部長、光吉理事 峰岡子育て政策課長、林課長補佐、里課長補佐、久保田係長 齋藤幼児保育課長、白石主幹、原課長補佐、山崎係長、濱野主査、中川専門監、内村専門監 福田こども家庭支援課長、藤井主幹 川上学校教育課主査（こども未来部付併任職員）、杉本学校教育課主査（こども未来部付併任職員） 大園保健部参事、中川福祉政策課長、岡田生涯学習課長		
資 料	【資料】こども家庭センターについてのリーフレット 【資料】こども大綱 【資料】“For Kids”プラン2020、 【資料】下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査（調査結果概要） 【資料】下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査		

事務局 （林補佐）	ただいまから令和6年度第1回下関市子ども・子育て審議会を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。 まず、会議に先立ちまして、人事異動に伴い交代となりました委員がいらっしゃいますのでご紹介させていただきます。社会福祉法人下関市社会福祉協議会 地域福祉課 主査 河崎 圭治様に替わりまして、社会福祉法人下関市社会福祉協議会 地域福祉課 地域子ども見守りコーディネーター 谷村 鴻文様に就任いただきます。それでは、谷村様一言挨拶をお願いします。
	（委員挨拶）
事務局 （林補佐）	ありがとうございます。 それでは、まず本日の資料についてご確認をさせていただきます。お手元に配布させていただいております審議会の次第、委員名簿及び座席表、こども家庭センターについてのリーフレット、こども大綱、“For Kids”プラン2020、最後に下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査（調査結果概要）を用意しております。 また、委員のみなさまには事前に送付させていただきました、下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査 調査結果報告書をご持参いただいているかと存じます。 お手元にはない方はいらっしゃいますか。 それでは開会にあたり、こども未来部長栗原から皆様にご挨拶申し上げます。

栗原部長	こども未来部 部長の栗原でございます。 下関市子ども・子育て審議会の開催にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。 皆様には、平素から児童福祉行政をはじめ本市行政全般にわたり、ご理解ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。 また、この度は、ご多忙のところ、下関市子ども・子育て審議会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。 さて、本市の子育て支援施策につきまして、今年度も最重要施策として、令和5年度に掲げた「For Kids For Future ～今と未来をつむぐ子育て支援～」のセカンドステージとして位置づけ、昨年度からの継続支援策に併せ、新たに第2子以降の保育料無償化、就学前施設におけるインクルーシブ保育環境の順次整備、こども家庭センターの開設、保育士バンク機能を活用する保育士保育所支援センターの設置や就学前施設の ICT 化等の支援策を行い、強力かつ、きめ細やかに推進してまいります。 本市の子どもたちの笑顔のため、皆様のご支援ご協力をいただくことを改めてお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
事務局 (林補佐)	本日は議題の内容に伴いまして、こども未来部以外の関係課であります福祉部福祉政策課、保健部健康推進課、教育部生涯学習課の職員を出席しております。 さらに子どもに関する政策を総合的に推進するにあたり、児童福祉と教育の各部門がより強固に連携するため、令和6年5月13日付の人事異動で、こども未来部付併任職員となりました、教育部学校教育課所属6名の職員のうち、事務局職員として、川上主査及び杉本主査が出席しております。 それでは代表して川上主査の方から一言ご挨拶申し上げます。
	(挨拶)
事務局 (林補佐)	ありがとうございます。 これより先の進行につきましては、会長にお願いいたします。
会長	それでは、令和6年度第1回下関市子ども・子育て審議会を始めさせていただきます。子ども・子育てという言葉の後ろにあるそれぞれ皆様方の関わりということはこの会議を通じて受け取って行動を起こすということをやっているようお願いいたします。 では最初に事務局から本日の出席状況についてお願いします。
事務局 (林補佐)	本日は、委員総数16名全員の出席をいただいております。従いまして、下関市子ども・子育て審議会条例第6条第3項の規定により、会議が成立していることをご報告いたします。
会長	本日の進行については、お手元の次第に沿って進めてまいります。それでは、“For Kids” プラン2025の策定に係るアンケート結果報告についてはじめたい

	と思います。皆様のところに前もって報告書が届いていたかと思います。では、事務局より説明をお願いします。
峰岡子育て政策課長	子育て政策課峰岡と申します。よろしくお願いします。 私から、この度の調査をいたしました、下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査結果、およそ350ページからなる冊子について、ご説明させていただきます。全て説明するには時間の制約もがございますので、概要にという形で、本日お配りした下関市の子ども・子育ての計画見直しのためのアンケート調査（調査結果概要）にて説明させていただきます。 概要の内容は前回5年前に実施しています調査の結果、調査項目が重なっている部分がございますので、5年前の調査結果とこの度の調査結果と比較、評価しながら、5年かけて社会情勢がどう変わったか、或いは、市で行って参りました施策の効果が結果に表れている部分もあります。或いは、市が行った施策の課題が見えてくるかもしれません。その中で、5年前の調査結果と比較することを中心に、概要版として、資料を用意しておりますので、ご容赦ください。説明の中で、こちらの報告書本体冊子の該当するページもご案内しますので、併せてご確認していただきながら、説明を聞いていただけたらと思っております。 それでは、概要版1ページ目、調査結果の概要についてです。 ここの説明は省略させていただきますが、この度の有効回答率は、就学前児童及び就学児童の保護者に対してのアンケート有効回収等率が50%、放課後児童クラブの利用者が74.8%、12歳から30歳の市民が29.7%になります。一般的な意識調査にあたっては、4割回収できればよいとよく耳にするのですが、就学前児童及び就学児童の保護者にあつては、実に58問にも及ぶこの度の調査項目であったにもかかわらず、5割の回収となっております。改めて、子育てをされていらっしゃる方々の意識の高さというものも、この回収率から認識いただけたところがあるのかと思っております。 では、調査結果に入参ります。 概要版1ページ目の下段にあります、子育て家庭の状況について、まず世帯構成について、就学前児童及び就学児童に関する調査、放課後児童クラブ利用者に関する調査、いずれともになりますけど、核家族の世帯がご回答いただいた世帯の家族の約9割となっております。 ページ1枚めくっていただきます。子どもを見てもらえる親族、知人の状況についてです。報告書本体冊子で13、14ページを一緒に見ていただきたいと思います。子どもを見てもらえる親族、知人の状況の調査について、日常的、或いは緊急時に見てくれる人がいないご家庭の割合は14%で、なかなか見ていただける、近しい人がいらっしゃるということがあらわれております。 一方で、子どもを見てもらえるとご回答いただいた方の中でも、安心して見てもらえるのは4割にとどまっており、見てもらいながらも身体的な負担の心配や、時間的或いは精神的な心配をなされるご家庭が多いという結果になって

おります。また資料の方に、今回の調査、同じ調査項目であれば、前回調査と比較してご覧いただけるようなグラフにしておりますので、間でご覧ください。

続いて概要版の3ページです。就学前教育の教育保育の総合的な提供についてです。就学前児童、就学児童のアンケートに関して、ご回答いただきました、保護者の就労状況をお尋ねしております。

母親の就労状況ですが、この度、母親の78.2%の方が就労されているというご回答になっております。前回54.3%ですので比較しますと、上昇しております。あわせて、両親ともに就労している共働きの世帯の割合も、前回調査と比較して上昇しているというところをご確認いただけるかと思います。

4ページですが、教育保育事業の利用状況、利用意向について、就学前児童の教育保育事業、具体的には幼稚園、保育園、こども園になります。こちらを利用されている割合は、ゼロ歳で6.1%、1歳から2歳で60.1%、3歳から5歳になりますと、9割以上のご世帯でご利用されている状況が見て取れるかと思います。

ページの中段の、幼稚園や保育園こども園などに空きがない理由で、こちらの事業、施設を利用できていないと回答した割合で、0歳で7.3%、1歳から2歳で14.9%、3歳から5歳で5.4%となっております。いわゆる待機児童の背景をお示しできるかと思います。

今度はページの下段になりますが、経済的な理由で幼稚園やこども園、保育園を利用できていないと回答された方の割合で、0歳で2.4%、1歳から2歳で7.4%、3歳から5歳で5.4%となっております。

ここでちょっと注目したいのが、3歳から5歳について、前回調査が経済的な理由で利用できなかった割合が21.7%であったのに対して、この度の調査では5.4%です。この下降について考えると、令和元年10月から保育の無償化が始まっております。まさにここが経済的な理由で、事業を利用できないというところが排除されたことがあらわれていると分析しております。

続いて、ページ移りまして5ページになります。教育・保育事業の利用開始時間について、いわゆる希望をお尋ねしております。ご希望について調査方法では、8時台から希望する割合が52.3%、7時台から希望する割合が27.2%、また、土曜日利用意向については、利用を希望する割合は48%、日曜日、祝日の利用意向について、希望される割合が17.3%となっております。このニーズというのも、ひょっとしたら冒頭ご案内しました保護者の就労状況が見てとれるというか、それに伴うニーズが多様化しているという状況がもしかすると見えているかと思っております。

概要版6ページになります。放課後児童クラブの利用状況、利用意向に関しまして、本体冊子では129ページです。

5歳児の保護者に子どもが小学生になってから放課後に過ごさせたい場所として、放課後児童クラブとご回答いただいた方の割合が59.7%と最も高くなっ

ております。前回調査では、ご自宅とお答えいただいた方が多かったわけですが、この度は放課後児童クラブでとの回答が割合としては一番多く、このあたりもひょっとしたら、保護者の就労の変化が、この5か年で共働き世帯が増えてきたという傾向があらわれてきているのかと思っております。

続いて、概要版7ページ冊子217ページになりまして、放課後児童クラブへの要望についてです。放課後児童クラブの満足度についてのお尋ねに対する回答ですが、非常に満足、或いは満足とご回答いただいた方の割合の合計が84.9%。逆に、やや、または非常に不満とご回答された方の割合が合計で8.7%となっております。

冊子218ページに移りまして、概要版は7ページの下段になります。放課後児童クラブの満足度についてで、やや或いは非常に不満とご回答されたご家庭における要望についてですが、保育料の軽減と回答された割合が29.1%と最も高くなっています。ちなみに前回の調査の結果では、最も割合の高い要望の回答が利用できる時間の延長でありました。この度は、保育料の軽減というところで、ひょっとしたら、経済的な背景があるのか、或いは先程ご案内しました就学前の保育料の無償を受けて、今度は児童クラブに対しての保育料を負担も考えると世帯が表れているかもしれません。

概要8ページ、冊子53ページ、56ページをご確認ください。一時的な保育事業の利用状況、利用意向に移ります。

まずは冊子53ページ、病児保育、病児病後児保育事業についてです。子どもが病気やけがで保育園幼稚園等を休んだ際に、仕事を休んで子どもを見た母親の割合は82.4%、父親が仕事を休みされた割合が30.5%で、このうち、病児・病後児保育施設等の利用意向がある割合は36.2%となっております。

概要8ページ、前回調査と比べますと、お母さんがお仕事を休まれた、或いはお父さんがお仕事を休みになって対応されたというのは、結果でいずれもポイントが大きく高くなっています。例えば、お勤め先でお子さんための休暇制度が充実してきたとか、いわゆる企業の協力も、この5か年の社会情勢の中で、企業側の理解、寛容性として現れてきているところかもしれません。

続きまして、概要版は9ページ、報告冊子60ページになります、一時的な保育の利用意向についてです。今後、一時的な保育事業を利用されたい利用意向がある割合についてお尋ねしたところ、41.4%の方々が、何かしら利用されたいと考えておられ、逆に、グラフで示しておりますが、58.6%の方は、必要ないという回答結果です。

概要版は9ページ下段に移り報告書冊子は131ページをお開きください。仕事と生活の調和の実現といたしまして、育児休業の取得状況についてお尋ねをしております。育児休業を取得した、或いは取得中の母親の割合は40.7%、父親の割合が8.1%となっております。

こちらは、いずれも5年前の調査と比較して上昇しており、先ほどご案内し

ましたが、企業サイドの理解もあって、育児休業が取りやすい職場環境が浸透しているところが現れてきているかもしれません。

概要版 10 ページ、冊子 136 ページ、137 ページに移ります。父親の育児への参加状況です。父親が家事育児に参加している割合が約 8 割、逆に家事育児に参加していない理由については、仕事が忙しいからと回答された方の割合が、5 年前の調査も同様に、若干低下はしているものの、理由として最も高くなっております。

冊子本体 92 ページに移りまして、概要版の方が 11 ページ、子育てに関する相談です。

子育てに関する不安、或いは負担というところをお尋ねした調査結果です。子育てに関する不安や負担を感じると回答された割合が 52.1%と、5 割を超えております。前回の調査が就学前児童に限った調査対象で、この度は就学前児童と就学児童も含めた調査対象にしておりますので、年齢ごとの前回と今回の調査結果の生活の不安・負担の有無について、グラフの中で比較しております。

概要版の方が 11 ページ、例えば 0 歳の保護者のうち、今回調査で非常に不安や負担を感じる、どちらかという不安や負担を感じるという割合が、それぞれ 4.1%、30.6%に対し、前はそれぞれ 5.0%、37.7%と、前回と比較すると今回は減少しており、不安感について言えば、取り除かれていると言えるかと思えます。

ただし、1 歳 2 歳や 3 歳から 5 歳の保護者については、今回の調査と前回の調査を見比べてみますと、子育てに関する不安・負担というものは、ちょっと不安を抱えている保護者の割合がともに増加しており、年齢ごとに少し動きがあるというのが、見て取れようかと思えます。

続いて、概要版 12 ページ、本体冊子 95 ページ、子育てについてのお悩みの中、気になることはどういうものかとお尋ねしたところでございます。子どもの健康や発育発達に関することとご回答された割合が 40.8%と最も高くなっております。次いで、子育てに必要な経済負担が大きいことが 40.3%、子どもの性格やくせのことが 39.9%と表れております。内容を前回調査と比較したものを概要版 12 ページに掲載しておりますが、前回よりもポイントが落ちているところを見ますと、中段ぐらいに、育児やしつけの方法がわからないというのが前回 27.7%あったのに対してこの度は 18.9%と 8.8 ポイント減少しております。ひょっとしたら、情報化社会において、しつけの方法の情報など保護者の入手する手段がこの 5 か年で充足してきたことが表れているかもしれません。

そして、概要版 13 ページ、本体冊子 101 ページ、子育てをする上で、気軽に相談できる人、或いは場所についてのご回答です。前回もですが、今回回答いただいた割合が大きく、相談できるところはあるということでお答えいただいております。逆に、人、場所がない、相談先がないとの回答割合が 6.8%となっております。

概要版 13 ページ下段、本体冊子 105 ページに移ります。子育てに関する相談できる先、相手方の調査結果ですが、配偶者、パートナーとの回答割合が 79% と最も高く、次いで、親や兄弟姉妹、親族が 74.7%。そして、友人が 66.6% となっております。

概要版 14 ページ、本体冊子 64 ページに移ります。地域子育て支援拠点事業の利用状況、利用意向についての調査結果です。地域子育て支援拠点事業の利用状況については、児童館、公民館、幼稚園で実施している活動事業の回答割合が 10.9%、地域子育て支援拠点事業と回答した割合というのが 8.1% となっております。

本体冊子 67 ページになりますが、地域子育て支援拠点事業を利用していない理由についてお尋ねしました。回答としましては、まず、利用する必要はないという回答の割合が 37.9% と最も高く、次いで事業を知らないが 35.2%、利用可能時間数などがあわない 25.4%、場所や方法がわからないが 19.6% となっております。事業を知らないとお答えいただいた方が大変多くございます。ひょっとしたら、この地域子育て支援拠点事業のお尋ね、調査票の方では解説を差し上げているのですが、堅苦しい事業名というのもおかしいのですが、尋ね方の工夫がもう少し必要だったかなと思っております。

概要版 15 ページ、本体冊子 68 ページに移ります。今後の地域子育て支援拠点事業の利用希望について、年齢別に見てみますと、利用していないが今後利用したい、すでに利用しているが利用回数を増やしたいという回答割合は、年齢が低いほど高くなっており、0 歳では、利用していないが今後利用したい割合が 45.8%、すでに利用しているが利用回数を増やしたい割合が 25.0% となっております。

概要版 16 ページ本体冊子 118 ページに移ります。ご自身の子育てが地域の人々や社会全体に支えられていると感じておられる割合は約 5 割、約 5 割の方が支えられていると感じていらっしゃいます。こちらは 5 年前の状況と比較しても、大きな変化は見られないところでございます。

次に、本体冊子 200 ページです。概要版はそのまま 16 ページですが、下関市の子育てのしやすさの程度について、子育てがしやすいまちだと思いと回答した回答割合が 58% で、前回 2019 年の調査と比較しますと、5.9 ポイント減っております。思わない、どちらかというと思わないという、いわゆるマイナス傾向の回答割合は、逆に 41.9%、6.6% と前回と比べると増加しているところでございます。

続いて概要版 17 ページ、本体冊子 113 ページになります。子どもの権利を守るための環境づくりについてです。

虐待の経験について、子どもに虐待をしていると思いと回答された割合が 1.3%、子どもに虐待をしそうになることがあると回答された割合が 10.4%、自分の行為が虐待にあたるのではないかと不安に思うことあると回答した割合が

	23.7%となっております。 本体冊子 115 ページに移りまして、虐待していると思ったことについて、お尋ねしたところ、感情に任せた言葉で傷つけてしまうとの回答割合が高くなっており、逆に、概要版 17 ページのグラフで見いただくと、感情に任せて頭などを叩いてしまうというのは、前回 44.2%あったのに対して、今回は 34.2%、10 ポイントほど低下しており、叩くような体罰というのは 10 ポイント低下していることが見て取れるかと思います。 概要版 18 ページ、冊子本体 108 ページになります。健やかに育つ環境づくりの関係で、下関市妊娠子育てサポートセンターいわゆる保健センターの利用状況についてお尋ねしております。下関市妊娠子育てサポートセンター保健センターを利用したことがあるとの回答割合が 35.9%で、子どもの年齢が低いほど高くなっております。利用者の割合が、年齢が低いほど高くなっておりまして、グラフを見ていただければ一目瞭然で、5 年前から保健センターの利用者が、大変増えております。全体見ても同様ですが、年齢ごとで 0 歳、1、2 歳、3 から 5 歳と年齢ごとに、分析しても、前回調査と比べますと、保健センターの利用は、増加傾向にあります。 そして、概要 19 ページ、冊子本体 88 ページをお開きください。妊娠中出産時の支援体制の満足度についてお尋ねしております。妊娠中、出産時の支援体制に満足したと回答した割合は約 8 割です。5 年前の調査と比較しても大きな変化は見られません。 概要版 19 ページ下段に移りまして、本体冊子は 91 ページになります。小児救急医療体制上の満足度について、調査しております。前回も調査しておりますが、小児救急医療体制に満足していると回答した割合は約 6 割となっております。 続いて、概要版 20 ページ、冊子本体 11 ページになります。ひとり親家庭の支援についての調査です。暮らしの状況が苦しいとご回答いただいた割合について、ひとり親家庭で 78.4%となっております。両親ともにいるご家庭よりも苦しいとお答えいただいた家庭の割合が大変高くなっております。 概要版 21 ページ、冊子本体 96 ページになりますが、ひとり親家庭の子育ての悩みについてです。子育ての悩みは多くの項目で、ひとり親家庭が両親ともにいる家庭よりも回答割合が高くなっております。 子どもと過ごす時間が十分とれないという回答割合が 3 番目と高くなっており、グラフの中で、中段あたりに 40.9%となっております。また 2 段上に、仕事と子育ての両立が難しいことという回答は、ひとり親家庭で 36%となっております。仕事と子育ての両立が難しく、子どもと過ごす時間が十分とれていないことは、相互の互換の関係性が見て取れます。また、最も高い割合で子育てに必要な経済的負担が大きいというのは、冒頭申し上げたとおりでございます。 それでは、概要版 22 ページ冊子本体 120 ページ、子どもが安心して生活でき
--	--

る環境づくりについてです。子どもの遊び場の状況ですが、近所の遊び場について感じる事として、満足しているとの回答割合は9%、15ある選択肢のうち9番目でございます。回答割合が高いのは、雨の日に焦る遊べる場所がないで61.5%、遊具の種類が充実していないが35.5%、近くに遊び場がない33.8%、場所、施設に関する希求度が上位になっております。

概要版23ページ冊子本体124ページ、子どもを取り巻く地域の環境についてです。暗い道路、人通りの少ない道路や見通しのきかないところが多いこと、車バイク、自転車の運転マナーが悪く、子どもが事故に遭わないか心配なことの割合が上位にきています。

概要版のグラフをご覧ください。前回調査と比べた中で解説させていただきますと、まず、中段あたりになりますが、「トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていないこと」というのが、気になることであった割合が前は26.5%であったのに対して今回17.2%と9.3ポイント下がっております。ひょっとしたら、そうした施設っていうものが充実してきていることがあらわれているかと思えます。或いはグラフ3つ下がっていただきますが、「授乳する場所や必要な設備がないこと」は前回18.7%がですが、この度10.9%で7.8ポイント下がっています。授乳施設も整備がひょっとしたら進んできているところが、この度の回答に表れているかもしれません。

また、“For Kids”プラン2020の策定にあたり、前回、調査を行っていなかったのですが、この度は12歳から30歳までの市民の方々の生活についての調査も行っております。

12歳から17歳までの子どもの生活実態について、本体冊子の233ページから260ページにかけて掲載をさせていただいております。すみませんが、細かいご案内は割愛させていただきます。簡単に申し上げれば、孤独感は小学生で特に顕著に現れております。中学生の塾通いが目立ち、学業の理解度は高いものの、年齢とともに自信が低下しているような傾向が現れます。また、高校生の6割が深夜に就寝しているなど結果が出てきて、こういった生活の実態が現れております。

また18歳から30歳までの子どもの生活実態については、冊子261ページから291ページにかけて掲載させていただきました。調査結果概要としては、嫌なことや悩みの主な内容は、仕事、就職やお金に関する事で、そして、8割の方が自分のいいところがあると回答される一方で、ほぼ同数の方が、ご自身を否定的に見ている方がいらっしゃるようで、特に25歳以上でご自身への自信の低さがうかがえる調査結果となっております。

最後に、冊子292ページをお開きください。この度の調査結果の総括を掲載させていただきます。

以上、駆け足でのご説明となり、大変申し訳ございませんでした。報告書の冊子の厚さ、ページ数が示しておりますように、大変多くのボリュームとなっ

	ております。委員の皆様におかれてもこれを読み解くにあたってはご苦勞をおかけしたかと思います。ただし、これは下関市の子どもたち、子育て中の方々のお考えとか、実態をまとめたもので大変貴重な情報を詰め込んだものとなっております。いろんなヒントがここに散りばめられていると思っておりますので、お尋ねなどあればお願いします。一方で、この調査とは別に、実際に子育てに関して、子育て中の委員、或いはそれぞれの分野でご活躍されていらっしゃる委員もいらっしゃいますので、この度の調査結果を肌感覚で分析されていらっしゃると思いますし、実際の現場でのご意見というものを披露いただければ、大変助かります。
会長	この分厚い報告書をつくりになっただけで大変だと思いますが、これは調査結果としての数字ですので、これらのデータをもとに、次に、この後に、どのように、子どもたち、子育てを支援していくかということが一番大事なことになると思います。 今の報告も様々な分野にわたっていましたが、皆さん方の中で、ご意見とかご提案とかありましたら、それぞれのお立場からでもいいですし、この報告書を読んででもいいです、手を上げて言っていきたいと思います。
梶山委員	この調査結果報告を見て、大変素晴らしいです。また大変苦勞されて、作られたなというのがまず第1の印象です。 それで、我々は、この中でありましたら、今の社会が子育てに理解を示している。例えば私たちの園にお迎えに来られる方をみると、お父さんが来られる方が多いのです。今日お父さん、どうしたのと聞いたら、今日休みなんよと子どもが言うのです。だから、お父さんとお母さんが、子育てに関心を持って、大事な我が子を育てると、そういった面はより鮮明になって、また企業が、そういうふうに理解を示していただいておりますので、お父さんもお母さんにとっても良く、一番は子どもにとってよいのです。私もこれは好ましい現象だなと、ありがたいな嬉しいなと思っております。 あとは、例えば幼稚園では預かり保育を頑張っているのですが、預かり保育のいわゆるお金、料金は念頭に置いています。4時を過ぎたら新2号の子は料金100円とか、それから朝から7時30分から100円徴収する。そういう細かくお金の計算とか徴収とかやっています。大体2号の子は、今、7時30分から18時が無料で該当しますが、今労働力不足が地方にも来ていますので、お子さんをお預かりするので頑張ってもらいお母さんが仕事をされるということで、5年前の倍以上増えているのです。だから、預かり賃、お金を何とかもう少し幅を持ってしていただいたら、できたら全額市に出していただいたらより子どもが幸せになるのではないかなと思っています。以上です。
会長	ありがとうございます。 他に。

副会長	冊子 53 ページにございます、子どもの病気の時に母親が仕事を休んだ割合 82.4%と高く、下関市に病児保育所は4か所あると聞いておりますが、数が少ないのではないかと思います。預けたくて電話したときに、空き待ちだからということがよくあって、やむを得ないから休んだのであって、仕事を好きで休んでいるのではないと思うのです。小児科が絡むことですがもう少し病児保育所ができないかなと思ひまして、よろしくお願いします。
会長	いかがでしょうか。そう簡単に病院でいいというふうには言えないとは思いますが、数字的には、下関市は少ないのですか。休むのは大体お母さんからというようになっていますね。
梶山委員	この件についても、感じているのですが、例えば園で預かる子どもが38度5分ぐらいの熱が出ましたら、それは当然家庭に連絡し、それからお母さんの携帯に電話し、お母さんが取れなかったらお父さんにと。結構、企業がそういうところに関心を持っていたらいいのでして、子どもが小さいからそういう時に早退して病院に行かせてくださいっていうことも、かなり前に進んでいます。パートだと賃金のカットはあるかもしれませんが、どうぞ行ってらっしゃいっていう企業の姿勢は、ものすごく感じます。みんなで大事な子どもを育てるという意識を前より感じ、大変ありがたいのです。今、現場は、そういうことを感じております。
中川委員	確かに熱が出たとなると、保育園も電話するのにすごく、お母さん大変だろうなと思ひながらも、子どもが、子どもの命が大事ですし、子どもの心が大事なので、心を鬼にしてお伝えしているところです。 ただ、病児保育については確かに、言われるように、正直もっとあればいいなと思うところなんですけど、感染症が流行っているときと流行っていないときとは、かなり格差があって、当然、看護師だけじゃなくて保育士も雇わないといけないとなると、本当にインフルエンザとかが流行っている時期は、多分、予約してもなかなか待機待ちみたいなのがあると思います。反対に、何も無いときもあると考えると、その運営とか経営とか結構難しいなと思います。お医者さんじゃないとわかりませんが。 ただ、本当に、いつでも熱が出たときに利用できたらいいなと、正直、現場感覚としてはあります。
伊原委員	この件は非常に難しい場合だと思います。特にこの数字、5年前、前はどうかだったのですか。 コロナがあって、感染が流行っているときに陽性が出たというと、絶対的に、当時は休んでもらわないと困るという現実がありましたし、病院の方も休まざるをえないのが現実だったと思います。
峰岡子育て政策課長	今日お配りした概要版8ページを開いていただければよろしいでしょうか。今ご指摘のあった、お子さんが病気でお母さんが休んだというところが、今回

	82.4%、前回は70.7%です。 前回の調査が、5年前にですが平成30年（2019年）の12月、年末にかけてでして、コロナが流行るか流行らないかというところ、まだ流行ってない時期でございました。というところが、まず、前回の調査との比較の話でございます。 また、概要版に戻っていただきますと、休まざるをえなかった保護者さんの中で、病児施設があったらご利用されたいですかというお尋ねへの答えが、8ページの下段の方にございまして、36.2%の方が利用されたいと、逆に63.8%の方は、利用したいと思わなかったとなっております。ただ、そもそも病児保育の制度をご存じないかもしれませんし、施設が4か所しかないから諦めたというところもあるかもしれません。だから、この36.2%をどう考えるかだけでは多分済まされない話だとは思いますが、こういった調査結果が現れておりまして、この事業が、委員のおっしゃられたように、難しい性質というところもあり、実態としてはわからないところもございます。ただ、おっしゃるとおり、4か所がどうかというご議論は当然生じてしかるべきだと考えております。
伊原委員	1点、今のところ、8ページの下段のところですが、前回と今回、病児保育も利用したいと思わなかったというのが60%を超えているわけですけど、この思わなかったっていうのは、仕事を休むのは辛かったかもしれませんが、熱が8度9度と、40度近くある時に、子どもをよそに預けて働くより自分が看たいという思いが随分あると思います。 その気持ちは非常に大事で、そこから社会がもっと豊かな気持ちでお母さん方を見守っていただきたい、子どもの育ちを見守るように、安心して、子育てができる環境を、社会全体で見守る形になっていかないとこの数字はなかなか下りていかないのではないかなと思います。 病後児保育では、病児保育ちょっと意味が違うわけですけど、お子さんの熱が急に上がった時、例えば、8度5分ぐらいの時、一応、保護者の方へ電話を入れます。ただ、8度5分だからすぐ来てくださいとは園も言いません。別室で看護師がついて、来られる時間帯までは見守っています。だから、そういう体制をとり、子ども、保護者の負担を少しでも軽減するような対応は各園もとっておるのではないかと考えております。それは、看られないから駄目だっただけではなくて、そういうところもあるということを理解していただきたいと思います。
梶山委員	今のお話に関連して、子どもはマーマーっていうのですよね。とにかくママに、そういうときは見ていただきたいのですよね。 だから、先ほど私が申し上げた企業とかそういうところが、とにかくママ、行ってもいいよ、後の仕事は何とかするからという傾向がやっぱりあります。委員のおっしゃいましたように、社会みんなで子どもを育てる、そういう形で、子どもが健やかに心も体も大きく育ってくれたらありがたいなと思っております。

	す。
富永委員	今の病児保育の話で、ちょうどタイムリーなことに、私の子どもは今日体調崩しまして、午前中仕事を休ませていただいていたので、夜勤明けの主人が帰ったのでバトンタッチして、こちらの方にさせていただいたところです。 私の中でも病児保育があるってことはもちろん知っているのですが、やはり先ほど委員がおっしゃられたように、具合が悪いときに、知らない場所に子どもを連れて行って、初めての場所で時間を過ごしてもらうというのは、母親としてもやっぱり子どもの気持ちを考えると、耐えられないというか、それだったら、仕事先にはご迷惑をかけてしまうと、大変心苦しい思いながらも、自分が見た方がいいというふうに判断の比重がかかってしまうところです。 ですので、すごく思いつきの案で申し訳ないのですが、例えば病児保育に預けやすい環境というか、病気になってないときでも行きやすいような場所に病児保育の施設もあるとか、自分の子どものこともよくわかっている先生がいらっしゃるところに預けたいという気持ちがあります。もしそうだったら、ごめんなさい、熱が出ちゃったんでちょっと見てくださって、先生方との関係性もありますし、子どもも知っている先生だったら安心して、ちょっとの間、2時間くらいは待ってらえるかなと思ったりすることもちっとできるかなと思いました。 ただ、やはりこの数字の少なさっていうのは、親御さんの心理がすごく働いて出てきているもので、それは何かものすごく難しい問題かなと思いました。
山本委員	今、病児保育という言葉聞いて、大変懐かしく思いました。 25、6年前に、自分の子ども2人いて、病児保育という言葉知らなくて、親2人が共働きをしていて絶対に休めないが家においていくこともできないときに、近所のおばあちゃんから病児保育があるのと聞いて、当時そこは空きがいつもあって、いつもOKでした。当時、空きがあり病院が併設ですからいつでも先生が診ていただけるっていうことに我々夫婦はやっぱり安心をしたわけですけど、今、4か所というのが多いか少ないかです。 例えば、全国的に見て、市の人口の割合、或いは未就学の子どもの割合に対して、例えば病児保育の設定、開設がどのぐらいあった方がいいという指針みたいなものがあるのかないのか、下関市としてはそういう病児保育を実際に運営するのはもう4か所が限界なのか、他に当たってみれば増えるかもしれないけど、当たるならば総合病院でないといけないのか、経営とか、閑散期とか繁忙期とか、病気に閑散期とか変な言い方ですけど、感染症の流行等々ありますけど、そのあたり何か基準みたいなものはあるのでしょうか、もしあれば教えてください。市の判断で、子どもの数を考えて4か所あれば十分だとか、或いは地域性の問題もありますから、その辺り例えば旧4町のあたりの子どもはど

	うだとか、ありましたら教えてください。
峰岡子育て政策課長	今日配り差し上げている“For Kids”プラン2020、こちらが現行計画で令和6年度までの計画になっております。冊子の88ページ、89ページをお開きください。 5年前に、病児保育については88ページの下段に掲載させていただいておりして、(7)病児保育事業として、調査に基づいて、ニーズ量をはじき、それに対する今度は確保の方策、ニーズに対する提供体制どうするかという話になっていまして、89ページの上の表ですが、病児・病後児対応型、体調不良児対応型につきまして、令和2年度それぞれ4か所、5か所とあったのが、計画では令和6年度、ちゃんとニーズに対応していこうというところ言えば、5か所、6か所という体制を整えていきましょうというところなんです。まさに今、次の“For Kids”プラン2025を策定しようとしています、ここをどうとらえていくか、実際に事業に手を挙げていただける方がいらっしゃるかどうかは置いて、市としてはどうしていくかっていうところを今整理していくところでございます。 また、“For Kids”プラン2020の冊子61ページお開きください。今、地域どのエリアでというお話がございましたが、この病児保育の事業以外にも、利用者支援事業や一時預かり事業など、いろんな事業があるのですが、エリアを下関市内全体でどう括って、作ったエリアごとにニーズをはじいて、エリアごとに提供体制をどう整えるかというところが、まず肝になってくるかってことで、病児保育事業については、現行計画では、下関市全域をひと区域として整理しまして、ニーズに対する提供体制を6年度には5か所、6か所というふうに整えていこうという計画でございます。
里課長補佐	補足で説明させていただきます。子育て政策課の里でございます。 病児保育の実績を述べさせていただきますと、89ページの2020計画書の中では、例えば令和2年度、量の見込みで、延べ利用人数12,473人とありますが、結果どうであったかというところ、コロナの影響もあるかと思うのですが、4施設で結果1,538人と落ち込んでおります。前年、令和元年までは3,291人の実績がありました。でも、令和2年度コロナの影響で1,538人、次の年1,507人と落ち込んで、直近の実績で言えば令和5年度、2,469人、4施設の合計の利用がです。だから、今計画の中で伸びを見込んで令和6年度は5施設と言っているのですが、結果としてそこまで、利用実績は伸びておりません。 でも、今回アンケートで自由記載の欄があったのですが、その中で先ほど委員がおっしゃったように、なかなか病児保育の予約できないであったり、小児科が近所に少なかったりして、うちのエリアにも病育児保育所が欲しいかと、そういった要望、ご意見がございます。それを受けて、今後、市も検討していかなくちゃいけないと考えております。

中川委員	先ほどのデータ見ると、働くお母さんも例えば子どもに熱が出たと言ったら帰りやすくなり、お父さんも積極的に以前よりは出られるようになったと、そのことはすごくありがたいと感じているところなのです。 ですが、一方、園の職員も当然子どもがいる方もいます。園の職員に、子どもに熱が出たと電話がかかったときに、快くお迎えに行くよう言っています。言っているのですが、目の前の子どもを置いて、それこそお迎えに行かなきゃいけないとなったら、何となく、職員の方も気が引けてしまったり申し訳ないなっていう気持ちになったり、或いは他の同僚にも負担をかけてしまうのではないかというふうに気を使ったりというのも当然だと言えば当然なのですが、出やすくなった一方でまだまだそういったところはあります。 先だって新聞の論評の中で「子持ち様」というのが出ていまして、SNSで結構批判を受けていたり、お母さん自身、既婚でお母さんなった方の幸福度というのが、既婚者の方が、子どもができた方が低かったっていうデータが出ていたりするのも事実です。だから、そういったところを、世の中を変えていく流れにしていけるような計画を是非立てていただけるといいなと思うし、みんなが本当に子育てを、目の前のいろんな仕事があるかもしれないけれども行っておいでと快く言ってもらえるような雰囲気であったり、風土であったり、そういったものが、できることが大事なのかなと思うし、以前よりは少しずつはなっていると思うのですが、これをまた計画を立てるにあたってぜひそういった下関になるといいなと思います。
会長	皆さんたちがそれぞれの立場で、現場で感じられていること、子どもの具合が悪くなった時、親のどうしたらいいか、次のステップでもやはり地域全体、下関全体で、ほかの関係ないような人は実はいなくてみんなが関係しているという、これが子育ての一番大事なことではないかと思います。子育てしているときに大丈夫だと感じるか、うるさいという視線を感じてしまうか、そのところを大切にすると町だということが何か皆さんの中に浸透していけば、下関は子育てしやすいよねとなり、子どもが増え、仕事も増え生活していくようになればよい、子どものことを考えておられる方の思いが外に広がるようになればいいと思います。ぜひ皆さんご意見をお願いします。
田中委員	一連の病児保育については、僕なりの意見はあるのですが、いったん置いておいて、僕は今休業しているので、子どものことはずっと見ていて、結構この時間帯になると割と外で遊んでいることが多くて、保育園から帰ってくるお母さんと子どもたちが多くて、僕は割と顔見知りじゃないですが声をかけたりするケースがあって、それは子どもたちにだけじゃなくて地域の方にも、子どもといるときはすごく挨拶をするようにしています。一方、受け取られ方としては、いいよ、一緒に遊んでおいでよ、というお母さんは結構少ないなと思っています。

	僕も親になったので、自分の両親とも自分の子どものころとか話を聞くのですが、幼稚園とか保育園の送りというのは、地域ぐるみで、この曜日はこの親が担当ねとかいうことがあったという話を聞いているのですが、一方で、多分今はそういうケースというのは少なく、自分の子どもは責任を持って自分で送り届けるとか、先ほどの病気になったときも自分で看るといような、そういうふうになってきているかなと。そういう中で、確かに病児保育みたいなところのハード面は重要なのですが、それがソフトなところ、地域の何の繋がりもないがアパートがたまたま斜向かいの子どもたちとか仲良くしとけば、あそこの親に、ちょっとだけ頼めないかなとか、そういうような風土づくりというところを、市として何かやっていくことができればいいのではないかなというふうに思っていて、ハードがあれば利用するかというと、この結果にもあるとおり、認知もそうですし、何となく預けづらみたいなのところもあると思うので、もうちょっと、地域で子育てという話もあったと思うのです。 近くの他人を頼れる何かってところを作っていくってことが、今後少子化において、重要なんじゃないかなと思っています。
梶山委員	今まであまり話が出なかったのですが、市の政策として子育てにおじいちゃんおばあちゃんをどんどん取り込んでいくと良いと思います。おじいちゃんおばあちゃんの大事な孫です。かわいしいし、逆に自分の生きがいになります。ですから、そういう部分の政策を市が考えて作ったらいいと思います。
会長	私たちはこういうふうにずっと審議会でも子ども、子育ての事をみんなで考えています。中には子育ての最中の方もいらっしゃるし、もう終わられている方もいらっしゃるし、いろいろな立場の方もいらっしゃいますが、今私が一番、困ったなって思うのは、町の中を歩いていると近所の子どもにおはようと声をかけてもおはようと返ってこない子どもが増えています。 今の子どもたちは知らない人に声かけられたら答えちゃいけないと言われて、もう初めから不審な人というふうに思われているし、声掛けしても結構ですみたいな顔されます。昔は挨拶運動がありましたけど、今はそういう風にだんだん世の中が変わってきて、ちょっとしたことですぐにあの地区は危ない、あの人は危ないとなってしまう感じがします。 でも、ここにいる方たちがきつと、それは違うと思っていちゃって、この下関という町がみんな温かく繋がり支える場で、子どもが前に進めるよう、それを施策ということよりも、何かこう広げていくという方法を考えたら、いいのではないかなと思うのですが。
山本委員	今の話は、今日教育委員会の方も来ていらっしゃいますが、私も退職するまでは高等学校に勤務して、子どもの小学校のPTA会長をしたこともあり、その頃の一時期不審者が全国的に流行って、殺人事件もあってと、そこから、子どもを安全に見守っていかないといけないということで、子ども見守り隊が

	全国で始まりました。そのとき、学校では、校長先生から見守り隊の方にちゃんと挨拶をなさいと、だけど変な人や全く見たこともない人から声をかけられたときに挨拶しちゃう駄目ですよと言われたということを知ったことはあります。校長先生が本当にそういうふうには子どもたちに指導されたのかどうか分かりませんが、私が住んでいる地域の元小学校の先生は、子どもの声が聞こえるとすごく嬉しいのだけど最近ちょっと挨拶しただけで、無視して走っていくということも聞きました。 それともう1点、最近、通勤するときに感じるのですが、子ども見守り隊の数が少ないような気がします。実は私も子ども見守り隊をずっとやっていました、なんか数が減ってきたけど、それは治安が良くなったということですかね。高齢者の方が中心になりますので、やっぱりお勤めの方は、時間帯が一番出勤のピークですから難しいところではありますが、先生は学校で待機ですし、子どもはほとんど1人で行っている場面が多いなと思っています。 だけど、他市と比べると、下関すごいなと思うのは、川中公民館のところに歩道があって、車が止まったらお辞儀をして、車のこっちに向かってお辞儀をして、素晴らしいです。私はいつも車の窓を開けていってらっしゃいって手を振っています。小学校でああいうふうには、やっぱり止まっていた、それに対して感謝の気持ちっていう教育が、小さいことですが、中学生になって高校生になって年を重ねていっても、別の形で会釈でもいいと思うので、そういったことができる下関市、1つの教育の在り方を目指していたら本当に嬉しいなと思っています。
池内委員	例えば勝山地区ですけど、小学校が2つあります。どちらも挨拶運動をずっとやっています。今、川中地区のお話がありましたが一の宮小学校も、車が止まったらお辞儀、これには気持ちがよいと学校に電話が入ってくるようです。 私も学校の関係で、地域の人にはしっかり挨拶しようとは、言っております。だから、いろんなところで出会ったりしたら、その地域にいらっていることがわかっている場合は、問題なく、子どもの方からも挨拶するし、私も子どもたちにおはようと言うと、みんなも、おはようございますって言って行きます。 先程のような注意を、今もしているかどうかちょっとわかりませんが、少なくとも地域の人たちは、いつも通る顔なじみの人たちは、挨拶をよくしよう、そういう人たちが自分たちを守ってくれるんだよってことは学校が言っているのではないかなと思います。 その話とは別に、資料を読んで気になったのが、(概要版)16ページの「下関市は子育てがしやすいまちだと思うか」の問いの部分が、前回よりも減っています。下関を子育てしやすいまちにしようと、一生懸命いろいろやっているのにそうになってない。なぜこういうアンケート結果になったのかってところを、私たちも、しっかり見て気づきを言えるよう、市の方も、どうしたらこれ

	が、住みやすくなったと言ってもらえる結果がこの次は出るように、本当に具体的に考えていかないといけないと思います。 例えば、そこでいうと、(概要版) 11 ページのところで、前は就学児をやっているのだけど、就学前 1・2 歳、3～5 歳まで、ここは悩みや不安・負担が増えているわけですね。子育てしやすければこれは減ってきて、これが増えているのはどうしてかと、そのあたりを分析していかないといけない中で、先程の説明で、12 ページの真ん中あたりで、「育児やしつけの方法がわからない」のところが減りましたと言われたのですが、確かに減っているみたいなのですが、一方で、10 ページでは「育児への関わり方がわからないから」と、そのような方が増えているわけですね。そのあたりで 1 つだけを見るのではなくて、13 ページで言うと、「子育てに関して気軽に相談できる先」というのは、みんな減ってきていますよね。相談できる先が少なくなっている。で、幼稚園の先生とか、保護者仲間は増えている。 そのあたりを含めて、増えた減った結果だけでなくその結果といいます、それらの相関の中でどういう施策をしたら、プラスになるのかなというその点を、私たちも考えていきたいと思いますが、市の方もしっかり練っていただきたいなと思います。
若松委員	下関市で、子育てしやすいと思う方が減っているというお話ですが、娘が大学 1 年生になりまして下関市から出ていくといった時で、今ゴールデンウィーク明けで、ホームシックになりそうときではあるのですが、高校のお友達との Line 電話の話を聞くことがあって、下関市に戻りたいという時があって、それはすごくうれしかったのですが、やっぱり高校のときの仲間が、今はまだ大学に入ったばかりで、新しい友達ができてないからもあるとは思いますが、下関市であった色々なことが、お話の中で出てくるみたいで、決してこの年代とともに、年齢とともにやっぱり自分たちで作り上げる部分があると思うのですが、他県とか他市に行ったときに、やっぱり下関市が良いということも、子どもが話していた中であったので、それは皆さんに伝えておこうと思います。
谷村委員	社会福祉協議会で、地域連携ということで、子どもは地域の高齢者の方たちと、そういうボランティア活動であったりを推進しているのですが、この間の例えば、地域の高齢者の方が、ちょっと子どもの面倒を見たりだとか、ちょっとした困りごとを解決したりというような取り組みをされている地域も結構ございまして、僕も地域と連携して子どもを見守る事業を進めているのですが、その前は高齢者の居場所づくり、生きがいづくりを進めていまして、その時の事業の中でも、子ども食堂を推進しておりました。なぜかといいますと、例えば、今、豊北町は子ども食堂が増えておまして、今現在、2 か所から 3 か所になり、これからまだまだ 3、4 か所増える予定になっております。豊北町は当然

	もう子どもが少なく高齢者の方が多いのですが、関わる中で高齢者の生きがいになって、居場所になって、役割を持って、健康寿命を延ばすということにつながっているとなるので、子どもさんのためだからぜひ参加してくださいというのは提案がすごくしやすいです。よく男性の高齢者の方とかデイサービスとかでお話するだけの会にいたくないって言われる方が結構多くて、なぜかという目的がない場所には参加したくない方も多いのですが、代わりにちょっと工作をしないといけないから、のこぎりが使えないから手伝って欲しいとか、ちょっと高所作業があるのでというようなお願いをすると、それは任せてくれと言われる高齢者の方がおられたりして。 なんというか、自分の健康のためと言っても、俺はもう長くないしと言われる方でも、子どもさんのために言ったら、来てくださる高齢者がものすごく多いので、子どもの居場所づくりは、そのまま高齢者の居場所づくりにつながっているというところもすごくあるなと思います。ただ、シルバー人材センターさんも人手不足とお聞きしていますし、高齢者の方も70・80まで働かれる方もすごく多くなってきておりまして、地域の自治会等でも人材不足というお話もあり、マッチングの部分でそれでもやっぱりやりたいと思ってもどこにいったら協力できるかわからないって方もいるから、協力したい方が協力できるような仕組みづくりを社会福祉協議会としてもやっていけたらと思いました。 今は地域づくりの観点だったのですが、もう1つ、社会福祉協議会の困窮の方の相談支援について、今回思ったことが少しありまして、最後までめの方の本体冊子の294ページの部分のところ、総括の再掲で、子育て支援に関する情報の入手状況が生活困難度別に出ておられたのですが、困難層の方が割合的に入手がしにくい状態が出ておられまして、とく、子ども食堂の方とお話していると、子ども食堂は子どもの居場所ですので、貧困等関係なく受け入れるというところがほとんどだと思うのですが、そのなかでも、とはいえ困っている子どもたちの支援をしたいと思っている子ども食堂が結構おられまして、ただ、どこにそういう人がいるかわからないっていうことをよく言われるので、広く周知をしてきてくれた人に平等に対応するやり方をしているのですが、これを見てやっぱり課題を抱えておられる方とか、貧困状態にある方とか、情報入手できなければ、そういうところに繋がるといのは、難しくなっていくと思うので、課題を抱えた方にどう情報を伝えていくのか。そういった方がフォーマルを含めインフォーマルに繋がっていくのかというのが、大事なポイントなのかなと。社会福祉協議会としても、情報提供をして行かないといけないなと、またどういう情報を提供すべきなのかということの整理する必要があるのかなと思いました。
雫石委員	私自身、子ども2人小学生を育てていて、悩みとしてあいさつしないということがあります。なぜ挨拶しないとかと聞くのですが、不審な人だからと、先生からそう言われていると言うのですよね。子どもを送っている時に、年配

	の方とかはおはようございますとか挨拶してくれる方は多いのですが、それでも、不信感でようなところがあって、挨拶はしないといけないってよく言うんですけど、何か、理解してもらえないという感じです。そういうときに逆にちょっとどういうふうに、指導されているのかな聴きたいなと思っていました。 何でしょう、ハード面というか子どもを子育てする中でハードは充実してきてはいるのですが、ソフト面というか地域の方、先ほどからお話ありましたが、いかに子どもを育てるためにはやっぱり地域の協力が必要かなと感じています。
森永委員	挨拶の話が出てきていて、私の意見なんですけど。 やっぱり挨拶。 例えば、大人がすれば子どもっていうところで、毎朝の受け入れの挨拶を保護者もちょっとね、寄っていったらこう考えようっていうのも少し入ってきたのかなあと職員でも上がってるので、必ずあそこのお迎えのとき帰りもしっかり保護者に向けて挨拶する。 ていうのをまず受けて挨拶すると、きっと保護者、お父さんが、実は大事だよって言って教えている。今は恥ずかしい気持ちだとか、不審者だっていうところで子どもが悩んでいるかもしれないけど、きっと挨拶ができる子に育つのじゃないかなと思って聞いていました。 やっぱりコミュニケーション能力の不足が言われているのは、挨拶が出来る出来ないというところから始まるのかなと思っています。 幡生保育園なんですけど、市大の大学生が登校されている姿を毎日見かけて玄関先を掃いていて、通ればおはようございますって言うのですけれど、大体イヤホンされているからか、聞こえていないのか、知らんぷりされている方や恥ずかしそうに会釈される方もいらっしゃるの、もっと大事なところっていうのは、継続して声かけていこうと熱心に思っているところなんですけど、できるところからいけば、身近なこともかもしれませんが、挨拶って大事だっていうことは、園の子どもにも教えています。 だから、お散歩のときは、なるべく先頭に立った先生から、人にすれ違うことも少なくなっていますが、おはようって、こんにちわって挨拶すれば、子ども達も大きな声で真似するかもよって。こんにちわって。この辺を大事にして行きたいところだと思っています。 あと、コロナ禍が少しおさまっていて、今年こそは、今年度こそは、お年寄りとの交流も、なかなかできなかったの、さっき地域連携と言われたのですがその辺を取り組んでいきたいと考えています。
永島委員	本当に先ほど何人もの委員の皆様からおっしゃったように、この調査結果報告書、ありがとうございました。 これを送っていただいたときに、ただで驚きましたけども、本当にこの

	ご苦勞、本当に大変だったのじゃないかなと思いました。 頑張って全部読もうと挑戦したんですけど無理でした。 そのぐらい内容のものがあって、申し訳ありません。 これからまたしっかり活用させていただきたいと思います。 私は、市が行っている児童クラブの支援員という立場で参加させてもらっていますので、せっかくですので、概要版ですけども、6ページ、7ページに出ていますので、ちょっとお尋ねしながら、また委員の皆さんにも知っていただけたらなというふうに思います。 まず6ページのなかで5歳の子どもの保護者の皆さんに、小学校になったら放課後、どこで過ごしたらいいかということで、一番上に児童クラブと、変わっているのを見て私はもうとてもうれしくなりました。 小学生の子どもが、本当はもう児童クラブなんか寄らずに、思いっきり家に帰って地域で遊びたいというのは本音でしょうけども、それでも親御さんが、児童クラブの存在を知ってくださっていて、こんなふうに答えてくださっていることに嬉しいなという気持ちでいっぱいです。 そこで、令和6年度になりまして、今の児童クラブの設置数であるとか、或いは定員の状況であるところですね。それから、そのうちどちらも見合う私達支援員、或いは支援を補助する補助員とかの充足率、そういうことに伴いながら、または充足できないために待機児童が出ていると、その辺のことをお尋ねしたいし、皆さんに知っていただければなと思いますのでお願いします。
峰岡子育て政策課長	今、手元に資料がないので、覚えている限りで大変恐縮なのですが、クラブに従事していただいて、支援員の充足率でご案内差し上げると、5月1日現在で、本来これだけの施設、部屋の面積分の定員に対する必要な人員というところでは、10人ほど欠員が生じていて、また、施設の面積が足りない部分と支援員の欠員による、いわゆる児童クラブの待機児童が、これが5月1日現在で、38クラブ支援単位、全部で200ちょっと待機が生じているところです。 この児童クラブというのが、平成27年度から高学年も受入れるようになって、今日に至っています。残念ながら下関市の児童数は減少傾向です。片や、児童クラブの入会を希望される子どもの数で言えば、右肩上がりが今年度までの状況でございます。そうした中で、5月1日現在の支援員の欠員の状況、或いは面積をご用意できていない、部屋を共有できていない部分があったりしての待機が生じているのが今のご案内のとおりで、このたびの調査結果で、ニーズが、あるのを改めて確認できたことかなと思います。
永島委員	はい、ありがとうございます。 私は課長はじめ、課の皆さん、子ども未来部の皆さんが、本当に努力をされていろいろ改革しながら、児童クラブの運営に取り組んでいらっしゃることをよく承知の上で、今質問をしてるんですけども、量的な面で言えば、いろんな

	人手不足の中で、幼稚園保育園さんにしてもそうでしょうけども、人材難の中で、いかに支援員、補助員を確保するかということが、もう本当に日常的な課題であると思いますけれども、それとともに、できるだけ多くの子どもを、やはり保育できるように、体制を整えていきたいということで、苦勞されていらっしゃることにうれしく思っております。感謝しております。 もう1点ですけれども、それに合わせながら、我々支援員、補助員含めて、子どもに関わるメンバーの一人一人の質的な向上というのが、一番の課題であると思います。 ましてや、人手不足になればなるほど、私は小学校教員40何年前にスタートしましたけども、当初は45人学級でした。 ですから、6年生が45人教室の中にいたら、もう歩く隙間がないぐらい、いっぱいでしたけども、今は35人学級とか30人を目指してとか、そういう状況の中でございますけれども、支援員の働くメンバーの質的な向上を図るために、課としては、どのようなことに焦点当てながら、取り組んでいかれるのかということをお尋ねして、そのことを逆に今日お聞きして、私ども力として頑張っていけたらと思います。一つアドバイスをお願いします。
峰岡子育て政策課長	今、欠員が生じているというのはご案内したとおりでございます。 この欠員をどう穴埋めしていくのか。 これは、ひょっとしたら保育現場の保育士さんのお話も一緒かもしれません。まず、児童クラブの支援員さんにスポットを当てた時に、ご案内できる、考える余地、いろんな検討、いろんな選択肢があると思います。 お給料の待遇の問題なのか、いやいや、働く職場環境での依然紙ベースでやってるネットワーク環境が整っていない。働く物理的な環境の問題なのか。いろんなところで、ご負担をかけているものを取り除く策がないのか。 そういった面で、支援員さんを、欠員を穴埋めしていくためには、当然、いろんな意味からの給付の面なのか、働く環境を整える面なのか、いわゆる処遇の改善というものを模索していきたいなと思っています。
横尾委員	私、どうしても職業柄ですね本資料の113ページあたりですね、虐待関連のことが、引かかって、虐待をそもそも市でですね、虐待を取り扱ってる課というかそういう組織がどこになるのですか。 おそらく、一般の方は虐待というと警察か児童相談所と思うのですよね。市に相談するっていう発想がまずない。 私は児童養護施設で勤めてまして、そこのアンケート結果を見まして、市の虐待に対する役割としては、ちょっと乱暴な言い方になるかもしれませんが、虐待を市は対応しなくていいと思う。極端に言うとはですね。 虐待については警察、虐待対応については警察、児童相談所に任すべきであって、市は何をするかって言ったら、虐待予防に振り切って、動いた方が多分

	市民の方もわかりやすいし、県と市のすみ分けもできるし。ていうのが、これ見ながらですね、思うんですけど、やっぱり市の窓口の役割がはっきりしないところがぼんやりとしてるなっていうところが見られるので、ちょっとその辺をまたそちらでですね今後施策の方でですね、させていただけたらなと思いました。よろしくお願いします。ちょっと難しいとは思いますが。 はい。わかりました。難しいと思います。
肥塚委員	細かいのを出してもあれけど、子育てしやすいっていうポイントは、5年前から下がったって先ほど、出たと思うんですけど、私はもうこの間に入った3年間のコロナがすごく大きく感じるなあと思うのが、人に相談できないから全部SNSになりました。 よかったことは、いろんな人がいろんなものを挙げて、家で泣いている子どもの動画をあげたりとかで、私だけじゃないっていうのを一生懸命頑張った3年間だったと思うんですね。 それで、いいように言えば、その中で子育ての情報が全部見られるし、下関がやっている支援と、他市とか他県を見比べて、よそがこんなことやってるあんなことやってるって大体ある文句を言ってます。それで、よそのいいところばかり拾って目の前にある自分が住んでるまちが見えづらいっていうのは、あるんじゃないかなと思っていて、これが今から5年間でコロナが終わった今から5年間の多分、もう一度見直す時期じゃないかなと思っています。次のF o r K i d s 2025 ですかね。ここの中に、このコロナの時期があったということをもっと盛り込んで、これからもうとにかく3年間、子どもたちは黙食をさせられたし、人としゃべることをやめさせられたし、マスクで人の顔もわからない3年間を過ごして、やっと今こうやって自由にマスクを外して奮闘したりとか、いろんなことをしてるんじゃないかなと思っています。だから、もう一度コミュニケーションの仕方の見直しであったりとか、子ども同士がじゃれあうとかお年寄りと遊ぶとか。病児保育の話も出ましたが、今母親が8割以上ってなりましたが、おばあちゃんたちにも預けられなかったんですよね。 コロナをうつしたらいけないからって言って、それで全部お母さんが、引き受けた。お母さんも一緒に病気になる。 コロナが明けたからよかったかなと思ったら、コロナの後、インフルとコロナと、何とかウイルスとか、山のように病気を拾ってきて、子どもだけでなく、親も病気になってとにかく2週間休むとか、よく聞かれました。 なので、やっぱり体もコロナの間に変化してしまったし、だから、今から、見直すときなんじゃないかな。それがちょうど2025に反映されたらいいなというふうに思いながらお話を聞かせて参りました。で、虐待の話も、虐待不安を持っているお母さんたち、育児不安のお母さんたちが大量にいらっしゃいます。 ちょっとしかっただけで虐待じゃないかって不安を持ちます。 その窓口が市役所にある方が、今言われたようにいいと思いますが、暴力の

	ひどさで言ったら、そこから先、警察であったり、その判断はとても難しいなと思いますが、線引きは難しいとは思いますが、虐待不安というお母さん方がたくさんいらっしゃるというところを踏まえて、これから活かしてもらえたらいいなと思って今日はお話を聞かせてもらいました。
会長	ありがとうございました。 ちょうど皆さんたちが、全員ご発言いただき時間もちょうどいい具合なんですけれど、今日いただいたご意見というのは、ただ単に計画を作つてというだけではなく、この大量の資料の中からご自分の場所から、これらをぜひ読み解いてのご発言ではないかと思います。 やはり私としては、こういう皆さん方のお持ちになっているスキル、それからここに行ったらこんなサポートができるよというようなことを、現実困っておられる、子育て真っ最中というか、まだこれも生まれたばかりの若い方たちがどうしていいかわからないけど、ここに言ったらいいという、ワンポイント、下関市内の人なら誰でも知っている、ここに言ったらいいという場所。 これが周知されると、そこに行きさえすれば、いろんなところに、紹介してもらったり、こうしたらいいよと言ってもらったりできるんじゃないか。 そこを役所の中のどの部門がどうやって、その人たちに、きちんとそれを伝えられるかということです。 私は、自分が安心できると思ったら、いろんな困難も人間って乗り越えられると思うのです。困ったらここで言ったらいいやと思えば、頑張れます。 ですから、安心して、困ってもいいよという、そういう地域を私はつくれたらいいなと思って、この会議は、皆さんたちがたくさんのご意見を言ってるので、ぜひ前へちょっとずつでも進めるように、皆さんで頑張りましょう。 今日本当にありがとうございました。たくさんのご意見を、これで大成功です。ありがとうございました。
峰岡子育て政策課長	ありがとうございました。 はいご意見ありがとうございました。 本当膨大な調査結果の内容になっておりまして、また、今日、貴重なご意見というか、現状というか、またご提案というものもいただいたと思っております。ご意見、或いは調査結果を踏まえて、これを今後、F o r K i d プラン 2025 の策定作業を進めて参ります。 従いまして、一旦、今日の意見等も踏まえて、これを次の計画の案に反映させる。そこを事務局にご一任いただいて、次回会議にまた必要な資料をご用意差し上げて、予定してるのが8月に第2回会議を予定しておりますので、また、あらかじめ、ご案内できれば当然に資料をご案内差し上げて、またお知恵をちょうだいしてご意見いただきながら、よりよい計画を進めて参りたいと思いますので、お願いいたします。本日はありがとうございました。

会長	次回は8月にもう一度、2回目を開催し、今回も、ありがとうございました。 次回も皆さんよろしく願いいたします。
----	---